

令和4年度東京ウィメンズプラザフォーラム  
オープニングトークセッション  
「わたしが動くと未来が変わる～身近な気づきから始める男女平等参画～」  
＜開催レポート＞

2022年11月5日 10:00～11:00

男女平等参画社会の実現に向けて、都と民間団体等が一体となって情報を発信するイベントとして、東京ウィメンズプラザが主催する「東京ウィメンズプラザフォーラム」。令和4年度はお茶の水女子大学理事・副学長である石井クンツ昌子さんとNPO法人ハナラボ代表理事角めぐみさんをゲストにお迎えし、会場とオンラインにてオープニングトークセッションを開催しました。

まずは石井さんから簡単な自己紹介と、トークセッションの目的についてお話がありました。石井さんが研究されているのは「ポジティブ社会学」と「ジェンダー研究」。『学問を通して「なぜできないのか」ではなくて「どうやったらできるのか」という視点に焦点を当てているから、「ポジティブ社会学」と呼称している』というお話に、トークセッションへの期待が高まります。

本トークセッションの目的は「男女平等参画への理解促進と、民間団体活動への参加のきっかけ」であると話され、まずは「アンコンシャス・バイアス」について、都民の皆さんから応募いただいた「性別による『無意識の思い込み』エピソード」も含めた具体的な事例の紹介から始まりました。



●性別による「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」

【内閣府調査】

第1位は「女性には女性らしい感性があるものだ」というもので、男女ともに約5割の方が「そう思っている」と回答。第2位は「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」で、こちらは男女ともに約4割の方がそう認識されているとのことでした。

### 【石井さんのエピソード】

家庭内における「妻（嫁、家内、奥さん＝家の奥にいる人）」と「夫（主人＝家庭の中心にいる）」の呼称に対する違和感や、プロポーズは男性がするものというイメージがいまだに残っていることについてご意見をいただきました。



### 【都民からのエピソード】

「宇宙飛行士になりたかったが、女性だから諦めた」「学生時代、応援団長になりたかったが、女性だから諦めた。けれど、数年後弟が入学した時には、応援団は女性で構成されており、応援団長も女性になっていた」というエピソードを紹介。石井さんもご自身の経験と重ねられています。

続いて角さんからお話があったのは、ご自身が男女平等参画に興味を持つようになったきっかけや、「ハナラボ」立ち上げの経緯についてです。

離婚を経て、イキイキとされたお母様の姿を見て「人生何があるか分からないから、自立して生きていけるようにすることが大事」だと気づいたという角さん。女子大に進学し、「女性が活躍するために学ぶ」という選択をされました。



その後、社会に出てから出会った女子学生が、社会で活躍する女性たちについて知る機会がなく、「女性だから家庭と仕事の両立は自分が何とかしないといけない、だからハードな仕事には就きたくない」「女性だから家事育児を担う」「リーダーには向いていないからサポートにつく仕事がいい」というバイアスに縛られている姿を見た角さんは、「活躍している女性たちについて伝える」ためのメディアを作るべく行動。ご自身がWebデザイナーだった経験を活かし、まずはWebメディアを立ち上げました。

そこで一緒に活動していた女子学生たちの能力の高さに気づき、彼女たちが更に活躍できる場を作るべく、NPO法人「ハナラボ」設立に移行していったそうです。

### ●NPO 法人ハナラボで行っていること

【Webメディア】女子学生向けのメディアで学生たちの視野を広げる

【ソーシャルデザインプロジェクト】地域や自治体と一緒に社会課題の解決策を考えて、形にしていくプロジェクトで学生たちの可能性を広げる

【ハナラボチャット】社会人女性が女子学生のメンター的存在としてサポート

「行動を起こすにあたっての障壁の乗り越え方やアドバイスを」という石井さんからの質問に対し、「まずはやってみる。やっていくことで今に繋がってきた」「やらないと気づかない」という回答をされた角さんご自身、「リーダーシップがあるタイプだとは思ってもいなかった」とのこと。

また、障壁の乗り越え方として「誰かに相談する」と即答され、たくさんの方の協力があつたことや、感謝の気持ちを繰り返しお話されていたのが印象的でした。

「恩送り」という考え方についてのお話もあり、「一歩踏み出せなかったとしても、一歩踏み出す姿勢を支えるということも、行動に参加していることになる」「支え合うことで行動しやすくなる」という、実際に行動に移すにあたっての非常に心強い後押しをいただきました。

その後、石井さんから挙がったのは、「研究のための研究」ではなく、「研究を一般社会に還元」していくことが重要であり、そのために民間団体が重要な位置を占めている、というご意見です。石井さんは、書籍や講演で学ぶことも非常に重要な機会ではあるけれど、実際に経験から学んでいくこと、「ネットワーキング」ならぬ「ノット (knot/絆) ワーキング」を推奨しているとのことで、具体的に活動されている民間団体のご紹介も続きます。

次に角さんからいただいたのは、「男性女性に限らず、LGBTQの方を含め、様々な困難を抱える方を支援している団体も色々ある」という情報と、加えて「最初は少し参加してみる、あるいは少額の寄付からでも、そういった団体を知っていくきっかけになるかもしれない」というご提案でした。

その後の質疑応答のコーナーでは、まず事前に投稿のあった「男女共同参画の活動を広めるにあたって励みになるメッセージを」という内容について、角さんは「くじけずに頑張っていたほしい」という言葉と共に、方法の一つとして「身近なところから男性も巻き込む」ことを勧められていました。

石井さんからは「まずは身の回りで“おかしいな”と思うことについて問題意識を持つ」ことの重要性についてお話があり、そこから同じ問題意識を持つ同士とのチームワークに広げていけたら……というお話の他、活動にあたり「3M（無理せず、皆と、前向きに）」というご提案がありました。また、家事育児に関して無理をしてしまう女性が多いことから、家事育児に関して「〇〇しなければならない」という「神話」に囚われている方に対して「2M（無理せず、まあまあ）」という心強いメッセージを送られました。

続いての「子供に対してどのように接すれば、男女平等の社会に繋がるか？」に対しては、具体的な言葉でのアドバイスの他、「子供は親の姿を見ているので、まずは自らが変化していくことが大事」という回答が角さんからありました。石井さんも「全く同感」と反応され、家庭内だけ



ではなく社会に出てからの影響にも言及され、「やはり必ずしも言葉だけではなく、行動で示していくことが重要」というお話に。

最後の「行動を起こすにあたり最初の一步に何をすればいいか？」という質問に対して、角さんは女子学生を支える「ハナラボチア」の活動を例に出され、ライトに関わる場所を探すことについて提案。石井さんからは、アメリカの保育園で、高齢者が赤ちゃんを抱っこするボランティアを例に、国内でも多数ある支援団体の中で情報を得て、自身にフィットするところを見つけ方は？ というご意見をいただきました。

その後、セッションのまとめとして、「これからチャレンジしたいこと、今チャレンジしていること」について司会の方から話を振られた角さんは、「ハナラボの活動を、現在の拠点である東京以外にも、海外を含め広く展開していきたい」こと、「ハナラボに参加した学生たちが卒業後はチアとなって学生を支える。そんな恩送りを続けていきたい」ことを挙げられました。石井さんからは改めてアンコンシャス・バイアスに気づくことの重要性と、大学内に新設された「ジェンダー・イノベーション研究所」での活動を通して、女性のウェルビーイング向上に力を注ぎたい、というお話がありました。

その後お二人から改めて「まず第一歩踏み出すこと」の重要性を含めた締めのご挨拶があり、温かい拍手の中、オープニングトークセッションはお開きとなりました。